

市町紹介

福井市



福井市はこれまで、数多くの災禍を乗り越えて不死鳥のごとく復興、発展してきました。不死鳥の精神が息づいており、不屈の気概と、お互いを尊重し合う風土が息づいています。

本市には、戦国ロマンを伝える「一乗谷朝倉氏遺跡」、幕藩時代の歴史を語る「養浩館庭園」、さらには風光明媚な越前海岸、春の風物詩である足羽川の桜など魅力あふれるミドコロが数多く点在します。

また、福井生まれの「コシヒカリ」、「越前がに」や「おろそば」をはじめ、大地と海からの恵を活かした四季折々の美味しさは、味の宝庫として人々をうならせます。

そのなかで、自然・活気・誇りにみちた人が輝くかえりとなるまち ぶくいを将来都市像に、住み続けたいまち、行ってみたい、住んでみたいまち、帰りたいまちを目指します。

敦賀市



敦賀市は、古来より天然の良港として知られ、日本海側の玄関口として世界に開かれた港を中心に栄えた港町です。

明治後期には、東京・新橋から敦賀・金ヶ崎とウラジオストクとの定期航路を介し、欧亜国際連絡列車が発着し、シベリア鉄道を經由して、ベルリンやパリ、ロンドンなどとの間に多くの人々や文化を運びました。当時は、駅や港に、シルクハットの紳士や豪華なドレス姿の淑女が往来するなど異国情緒に満ちあふれていました。

その類まれな歴史を通りぬけ息づいてきた敦賀には、北陸道総鎮守と仰がれる「気比神宮」、歴史的な面影を残す町並み「博物館通り」など、ノスタルジーなエピソードがいたるところに眠っています。「港と鉄道のまち敦賀」へぜひお越しください。

小浜市



小浜市は県南西部に位置し、近畿圏との歴史文化のつながりが強く、風俗、習慣、言語等に多くの共通性が見られます。また、国名勝蘇洞門に代表される、切り立ったリアス式海岸の若狭湾は国定公園に指定されています。古代からの天然の良港である若狭湾は新鮮な魚介類を生み出し、その海の幸を朝廷に送る御食国としての歴史を刻んできました。

中世には、象を乗せた南蛮船が来航する等、日本海側の玄関口として、京都・滋賀・奈良へ大陸・南蛮文化を伝える主要な港町として栄えました。市内には、伝統行事や祭礼等の民俗行事や寺社建造物等、県下で最も多くの文化財を有しています。その他、「京は遠ても十八里」と謳われた鯖街道の起点もあり、へしこやナレスシ等の食文化も豊かなところ です。

若狭町



若狭町は、西に小浜市、南は滋賀県と隣接した人口1万6千人の町です。若狭湾にそそぐ北川に並行した旧若狭街道(通称鯖街道)を通じ、宿場町として栄えた熊川宿をその拠点として、京や近江と物資や文化両面でのつながりをうかがうことができます。

また、約7万年の湖底の堆積物「年縞(ねんこう)」が発見された水月湖を含む国名勝・ラムサール条約登録湿地の三方五湖、縄文のタイムカプセルと言われ丸木舟や漆塗櫓が出土した鳥浜貝塚、若狭の王墓である前方後円墳が集中する古墳群、環境省選定の名水百選瓜割の滝など、歴史的価値の高い文化財や美しい自然が豊富にあります。

これらの若狭町固有の宝を、故郷への愛着と誇りをもって次代へと受け継いでいこうと取り組んでいます。

大野市



私たちのまち「越前おおの」は、緑豊かな自然環境が育むおいしい水と食に恵まれた、歴史、文化、伝統が息づいており、また、戦国時代に築かれた越前大野城から見下ろす市街地は、寺院が連なる寺町通りや短冊状に区切られたまち並みなどから「北陸の小京都」ともいわれています。

また、まちのイメージを強く打ち出す言葉として、ブランド・キャッチコピーを「結の故郷(ゆいのくに)越前おおの」と定めました。「結(ゆい)」という言葉には、古来より、村々で農作業などをお互いに助け合いながら行う習慣の意があります。そして、その言葉を含んだ「結の故郷」には、多くの地域とのつながりを大切に受け継ぎ育ててきた大野市を、結がたくさん詰まった一つの故郷として表現しています。

勝山市



勝山市は、福井県の北部、九頭竜川の中流域にあって、古くから繊維産業で栄えた人口2万6千人の自然豊かな田園都市です。また、恐竜化石の発掘量が全国の約8割を占める本市は、平成21年に「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパークの認定を受けました。

年間50万人の来場者でにぎわう恐竜博物館、西日本一の規模を誇るスキージャム勝山、境内に映える苔が見事な国史跡白山平泉寺、さらには、300年以上の歴史を誇る奥越前に春を呼ぶ奇祭「勝山左義長まつり」など、全国的にも一級品の見どころが数多くあります。

アメリカの経済誌「フォーブス電子版」が世界で9番目にクリーンな都市として選んだ本市の豊かな自然をぜひご覧ください。

鯖江市



鯖江市は、福井県のほぼ中央に位置し、人口約7万人のまちです。眼鏡、繊維、漆器を三大地産産業としてしています。

また、鯖江市のシンボル公園として「日本の歴史公園100選」に認定された「西山公園」は、春には、約5万株のつつじが咲き乱れる日本海側随一のつつじの名所であり、桜、つつじ、もみじ、雪吊り風景と四季を通じて多くの人で賑わいます。園内には、動物園、芝生広場、冒険の広場、日本庭園などがあり、大人も子供も楽しめる憩いの公園です。

また、市民が主役となった地域活動も盛んであり、人間味豊かなまちとして堅実な発展を続けており、日本のふるさとの原点ともいえるべき「人」、「ものづくり」、「自然・環境・風土」、「まち」の魅力にあふれています。

あわら市



あわら市は福井県の最北端に位置し、市の北西部は日本海に面しており、その一帯は越前加賀海岸国定公園にも指定されています。市の北部は北湯湖と丘陵地帯、東部は山岳地帯、南部には田園地帯が広がっており、こうした自然に育まれた豊富な食材は四季を通じて楽しむことができ、あわらの魅力の一つにもなっています。

本年度は市制施行10周年の節目の年でもあり、来年度にはあわら温泉開湯130周年を迎えます。

また、今後の北陸新幹線の福井延伸を見据えながら、現在、官民一丸となってにぎわいに満ちたまちづくりを進めています。

訪れるたびに新しい魅力が発見できるあわら市です。皆さんのお越しをお待ちしています。

越前市



越前市は、福井県のほぼ中央に位置し、市の中央を北陸自動車道と国道8号が縦断し、関西・中京圏などの主要都市や福井市・敦賀市など周辺都市との交通の動脈となっています。

本市の歴史は、継体大王伝承に見られるように大変古く、越の国と呼ばれた頃から拓けた地域で、旧武生市には越前国府が置かれ、政治・経済・文化の中心地として栄えました。平安時代には「源氏物語」の作者、紫式部が越前国司として赴任した父とともに多感な青春時代の一年余りを暮らした地でもあります。

現在は、越前和紙や越前打刃物をはじめとする伝統産業から、電子部品などの先端産業に至るまで幅広い産業が集積し、県下第一位の製造品出荷額を誇る「モノづくりのまち」として発展しています。

坂井市



彩り豊かな海が、山が、空が癒してくれる、美しい自然景観や歴史文化遺産を数多くもつ坂井市は、人々を包み込み優しさを伝える心のふるさと、地域が一体となったもてなしのまちです。坂井市を宇宙(そら)から眺めると「心」の字の形をしています。輝く未来へ…みんなで創る希望の都市(まち)坂井市。ここには、人間(ひと)の一番大事なものがあります。

分科会会場である坂井市三国町は、断崖に日本海の荒波が打ち寄せる景色や、夕陽の名所で知られる国指定名勝「東尋坊」と、三好達治、高見順たち多くの文豪が魅了された文学のまち、北前船の寄港地で大きな繁栄をもたらした歴史のまちです。新鮮な海の幸や、農産物等福井のうまいものを堪能できます。

永平寺町



永平寺町は、福井県嶺北地方のほぼ中央に位置し、南と西は県都福井市、東は勝山市に、北は坂井市にそれぞれ隣接し、東は白山連峰を望み、四季を彩る山々に三方を囲まれた町です。

永平寺町には、曹洞宗大本山永平寺や吉峰寺、手繰ヶ城古墳を始め、いにしへの壮大なスケールを感じさせる国指定の史跡・松岡古墳群などがあり、町の中心を流れる九頭竜川中流域は、鮎や憧れの魚サクラマス釣りの場として全国各地から大勢の太公望が訪れる自然豊かで、歴史と文化に育まれた町です。

永平寺町では、「うるおい・やすらぎ・人がきらめくまち えいへいじ」をまちの将来像に掲げ、町民誰もが安心して快適に暮らし、住み続けたいという意識を抱き続けるまちづくりが大切だと考えています。

南越前町



南越前町は、海、山、里の地形の変化に富み、季節の彩りを豊かな自然の中で実感できるまちです。夏は日本一の作付面積を誇る「花はす」、冬には越前海岸の潮風に揺られながら「水仙」が可憐な花を咲かせます。

古くから陸路・海路の要衝として栄えた南越前町には、今でもその面影が残る「今庄宿」や「北前船主の館右近家」など、風情あるまちなみが残されています。これらの歴史資源との関連も深い、豊かな風土が生み出したそばやつるし柿などの食文化も息づいています。

人・もの・情報の往来により形成・発展してきた歴史文化や美しい自然を生かし、「出会いから活力の花開くまち」に向けて住民との協働によるまちづくりを進めています。